

第3回 にぎわい創出検討部会

令和4年4月28日(木) 16:00～

宇部市文化会館2階研修ホール

出席者 部会長 + 部会委員 15名

今回のWSの目的は？

ウォーカブル、即ち「居心地が良く歩きたくなる」まちをつくるためには、常盤通りだけで完結することはできない。雰囲気の良い通りをつくることは勿論のこと、エリア全体に行きたい目的地を増やしていかないといけない。

真締川 + 新庁舎広場 + 井筒屋跡地 + 琴芝街区公園 + 商店街等の地域特性を読み取り、それに沿ったエリア別のビジョンと方針を踏まえ、沿道建築(民間、公共)との関係を考える。

第3回となる本会では、集まった「にぎわい創出検討部会メンバー」と「山口大学の学生」が4つの班に分かれ、それぞれワークショップ形式で以下の議題について議論・発表を通して意見を共有しエリアビジョン検討を行った。

今回のWSの議題

“宇部らしい”ウォーカブルな「まち」を表すコンセプトは？

ウォーカブル区域はどこまで？景観はどうあるべき？

01 “宇部らしい” ウォーカブルな「まち」を表すコンセプトは？

前回の部会で提案された案をベースにもう一度議論し、案を絞る。

これからの常盤通りがどうなれば、「居心地が良く歩きたくなる」

ウォーカブルな通りになっていくのか？各々の思いを、

共感でき・思い浮かべやすく・未来志向な常盤通り＝「〇〇〇〇〇〇」だね！

と整備・活用において一つの方向性を表す言葉（**キャッチフレーズ**）を検討していく。

前回の案

宇部の縁側【engawa】

家の庭の延長のようにふらっと立ち寄れる場所

通り全体がサードプレイス

市民のためのセンターアリーナ

02 ウォーカブル区域はどこまで？景観はどうあるべき？

居心地が良く歩きたくなるように、快適性・魅力向上を図る空間として **どの範囲まで** をウォーカブル区域とするのかを考える。

また、そのような **常盤通りの景観** はどうあるべきか考える。

01

自由なロードパーク

常盤通りの近い将来像を考えていく上で、常盤通りに集約して自由に過ごすことで「スポーツ」「文化」「食」「趣味」が複合し交わる空間として週末に使われる市民の憩いの場となればと意見がまとまった。「宇部らしい」とは「宇部の人が使いやすい、自由に使える」ことであり、数年間の大枠の目標としてロードパークを隔週で行う歩行者天国化も考えられ、出店があり自由に使われる通りとなる。そうすることで、日常でも人が来るウォーカブルに一歩近づくのではと考えている。

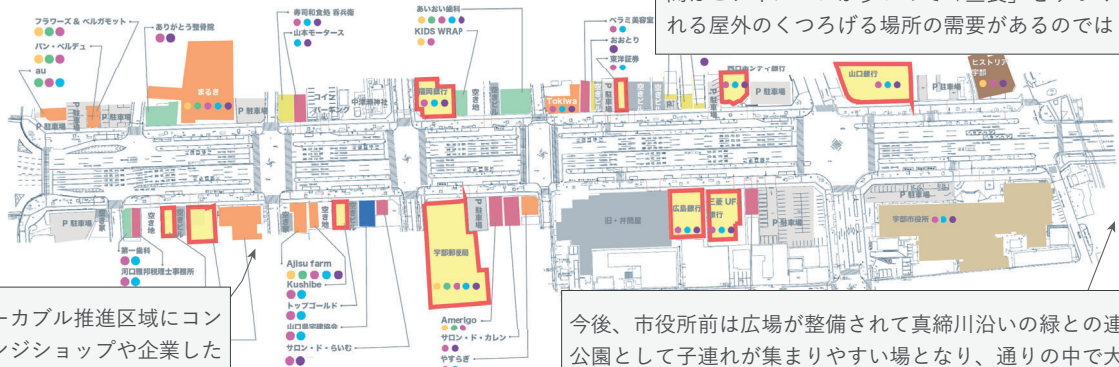


02

ポスティビルは、wi-fiの整備が進み、ときスマの閉鎖後の学生の受け皿として、大きな役割を担っている。他にも、子育て支援施設等入り多世代の利用が見られる。

小売業 / 卸売業	飲食サービス業	公務施設	駐車場
金融 / 保険 / 郵便業	医療 / 福祉	文化施設	空き家 / 空きビル
サービス業 (技術)	不動産業		

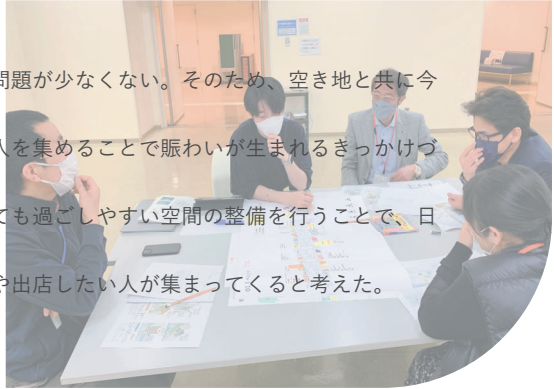
常盤通り全体を見ると、金融機関が多いので平日の昼間はビジネスマンが多いので「昼食」をゆっくり食べられる屋外のくつろげる場所の需要があるのでは？



空き地や、今後のウォーカブル推進区域にコンテナを設置してチャレンジショップや企業したい人を集めることで賑わいが生まれるきっかけにすることで、人を集めやすくできないか？

今後、市役所前は広場が整備されて真締川沿いの緑との連続から公園として子供が集まりやすい場となり、通りの中で大きな求心力を持つ可能性がある???

常盤通りでは、新しいお店を作ると言っても沿道建築と地権者の調整やマッチング問題が少なくない。そのため、空き地と共に今後のウォーカブル推進区域にコンテナを設置してチャレンジショップや起業したい人を集めることで賑わいが生まれるきっかけづくりを考えた。常盤通りには金融が多いので、ビジネスマンが昼時テイクアウトしても過ごしやすい空間の整備を行うことで、日常の往来も生まれ、今後、歩行者天国など「ロードパーク」化したときに歩く目的や出店したい人が集まってくると考えた。



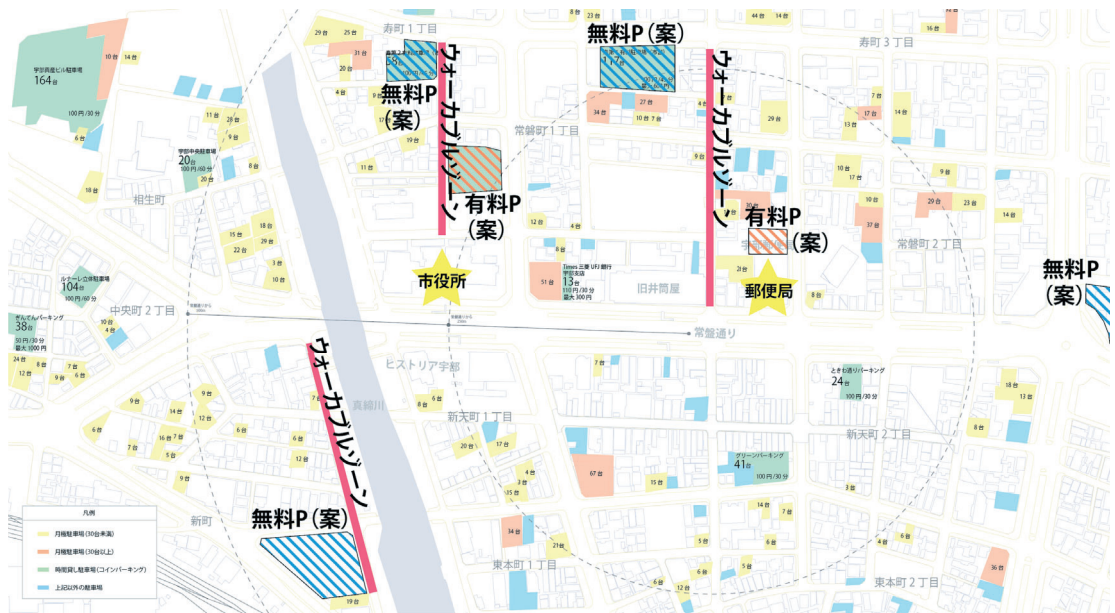
01

やってみたいがかなうみち

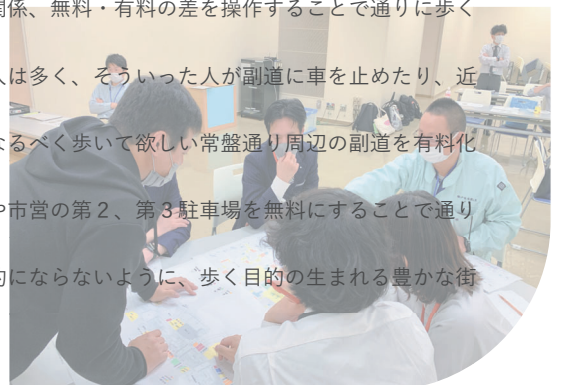
常盤通りには「イベント時」と「日常時」の2本の柱が重要だという意見から、将来的に常盤通りに必要な設備や制度の話が多く見られた。また、イベントとイベントの間を繋いでいる日常時に、市民に清掃イベントなどに参加してもらうなどの案や、市民のさまざまな活動をスムーズに受け入れられる制度が必要だという意見が出た。これらを踏まえ、市民の「やってみたい」を応援し、小規模、大規模でも様々な活動が受容できるといった意味を含め、「やってみたいがかなうみち」というキャッチフレーズが生まれた。



02



どうすれば人を歩かせることができるかという話し合いをもとに、駐車場の位置関係、無料・有料の差を操作することで通りに歩く人が生まれるのではないかという意見が出た。平日、市役所や各金融機関に行く人は多く、そういった人が副道に車を止めたり、近くの無料駐車場に車を止めて歩いていないという現状にあることに気がついた。なるべく歩いて欲しい常盤通り周辺の副道を有料化もしくは制限、駐車場を有料化すること、少し離れた場所にある川沿いの空き地や市営の第2、第3駐車場を無料にすることで通りを歩く人が増えるのではないかという議論になった。しかし、歩かせることが目的にならないように、歩く目的の生まれる豊かな街路空間、魅力ある店舗が生まれることが最も重要であるという議論になった。



01

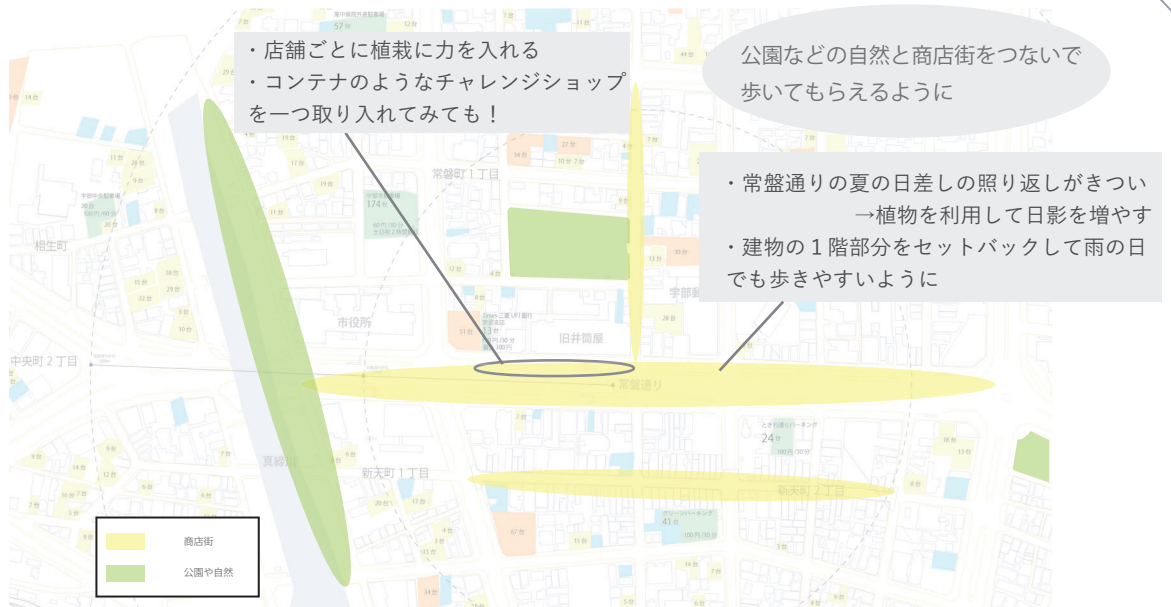
みんなでつくる公園

前回のワークショップと同様に、目的がなくても過ごすことができる空間がい
いのではという案が出た。その際に、作業空間として充実できるように、電源・
wifi など設備が整った環境がほしいという案となった。

あらゆる目的で、みんなが集まっているというイメージから「みんなでつくる
公園」といったキャッチフレーズになった。つくるには目に見える空間をつく
るだけでなく、作業している人が目的を果たし、人々の動き自体がいい景観と
なっているなど、あらゆる「つくる」が集まるという意味を持った。



02



ゾーニングは難しく、エリアを限定していくまでには至らなかった。

現状の問題点から、夏場は歩道の照り返しが強いので、木陰が広がるような街路樹を活用していくと言う案や、経済的な工夫が必要
だが、建物をセットバックさせ、雨風を凌げるし、公開空地としての利用も繋げるのはどうかと言う案が出た。

天候にも左右されず、歩くことができるための空間を考えた。



01

「縁側」というキーワード

今回、新たなキャッチフレーズを考え出すことは難しかったが、前回のWSでも意見が出てきた「縁側」という言葉が素敵だという意見が多く出た。しかし、通りの規模の大きさに対して小さく感じられてしまうのではないかなった。新しい宇部らしさを持ちながら歩きたくなる通りにするために、2022年春に紫綬褒章を受章された庵野秀明さんに関連する物を通りに置いて見つけながら歩いてもらう「庵野ロード」が楽しいのではないかなという意見も出た。



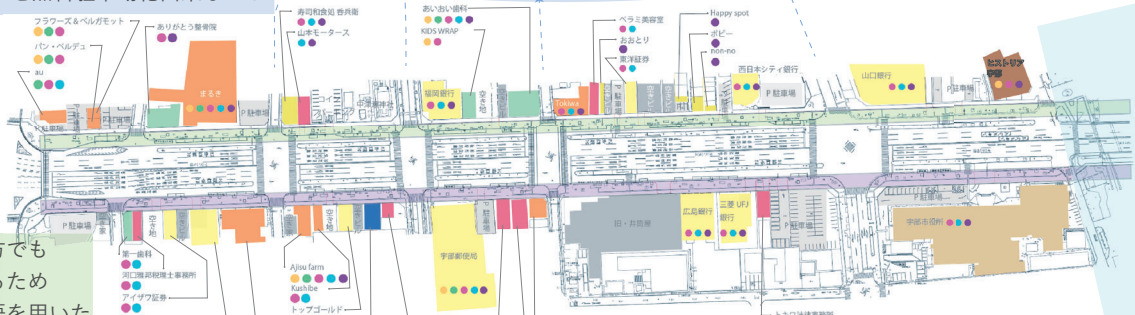
02

海側まで範囲を広げて考えてみたいね
港町の旧山口合同ガス跡地を無料駐車場化出来ないか

宇部は学生が多いが学生のための場所が少ない!!
海の見える自習室を作ろう

海までの動線は要検討
場所によってはあまり綺麗じゃないところも...

- 小売業/卸売業
- 飲食サービス業
- 公務施設
- 駐車場
- 金融/保険/郵便業
- 医療/福祉
- 文化施設
- 空き家/空きビル
- サービス業(技術)
- 不動産業



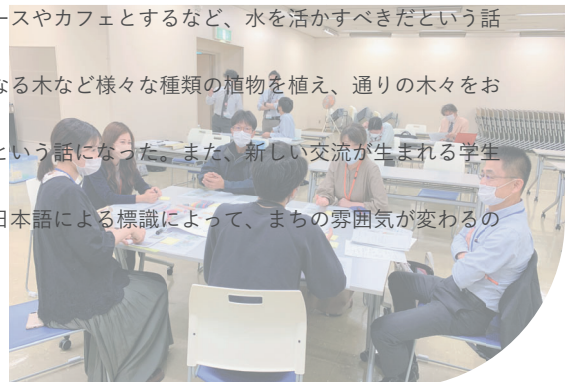
外国人や障害のある方でも歩きやすいようにするため
英語ややさしい日本語を用いた標識を設置したらどうか

2022年春に紫綬褒章を受章された庵野秀明さんに関連する物を通りに置いて見つけながら歩いてもらう「庵野ロード」にしよう!!

季節を感じる花や果物を道路に植えたら歩いている人もワクワクする!

真綿川は子供たちが自然を体感・体験できる場所に

真綿川の近くを子供が自然を体感できる場所とし、海側を海の見える学習スペースやカフェとするなど、水を活かすべきだという話になった。そして、そこから常盤通りを含めた道に、四季が分かる花や果物になる木など様々な種類の植物を植え、通りの木々をおしゃれなイルミネーションとすると、心地よく歩くことができるのではないかなという話になった。また、新しい交流が生まれる学生の拠点づくりや、外国人に向けた多言語や子供でも読むことができるやさしい日本語による標識によって、まちの雰囲気が変わるのではないかなという意見も出た。

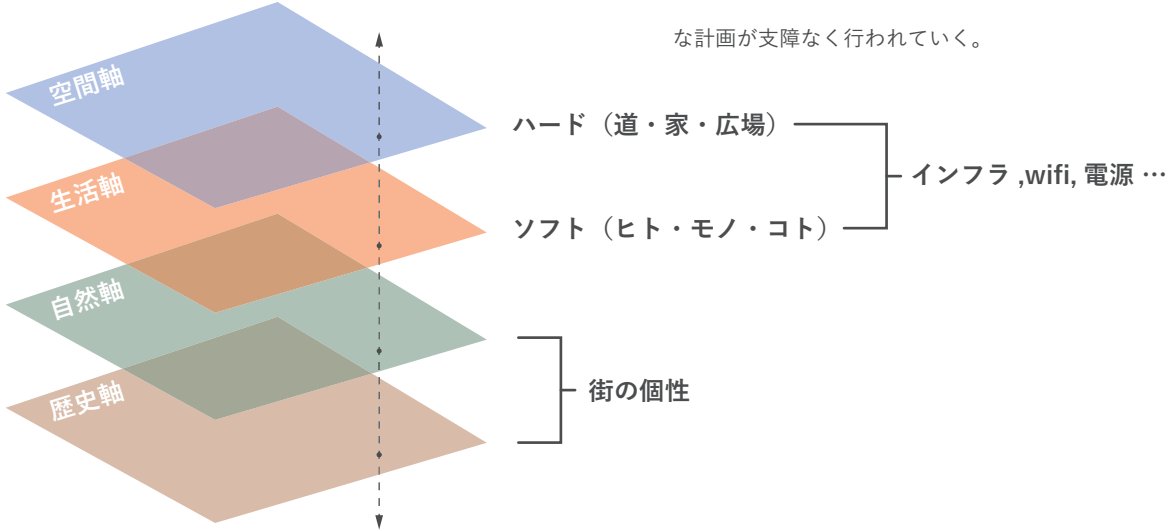


03

ワークショップのまとめ

あらゆる意見を吸い上げ、整理していくための手法を紹介。

オーバーレイマッピングの応用



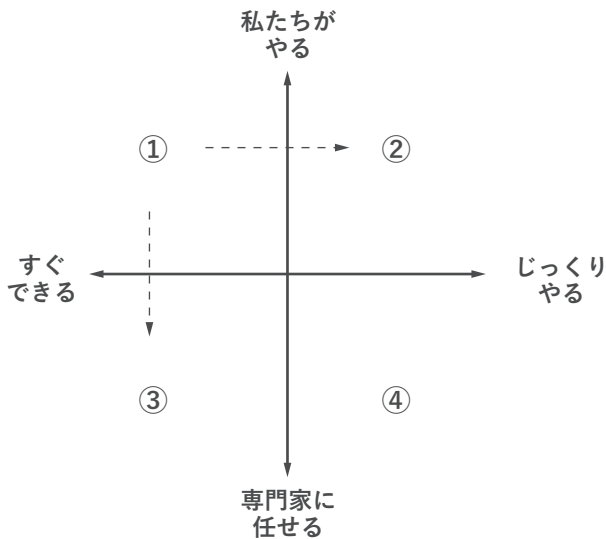
キーワードを分野ごとに検討した上で、それらを **レイヤー** として重ね合わせて関連付けた整理を行う。縦方向の結びつけにより、全体的な計画が支障なく行われていく。

ペルソナ設定

	年齢	性別	居住年数	職業	...
居住者	2 ターゲット		3 ターゲット		
外来者					
通勤・通学		1 ターゲット			
...					

単一人をターゲットとして考えるのではなく、**項目別**に分けて考えていく。その結果、それぞれの該当する**ターゲット**に求められているものが明確となる。

時間軸で考える



実行する事項に関して、2軸に分けられた計**4領域**に該当するものを整理していくと、実行していく優先順位や位置付けが明確になる。

議論内でのキーワード

- ① 通りの葉っぱ掃除
- ② 隔週のイベント出店 & 出店者の組織化
季節を感じる果物・野菜の植え付け
- ③ 昭和の建築展望 (専門家が解説する)
- ④ コンテナチャレンジショップの設置
英語や優しい日本語を用いた標識



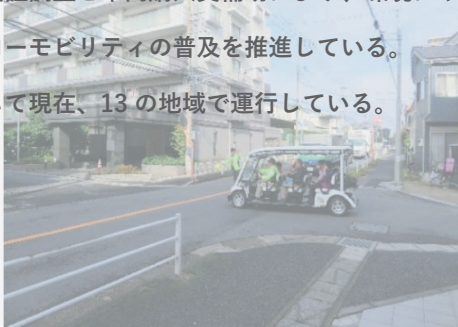
ワークショップ中に出た、取り組みや事例紹介

01 グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティとは、「電動で、時速 20km 未満で行動を走る 4 人乗り以上のパブリックモビリティ」である。高齢者の移動手段の確保、観光客の利便性の高い周遊手段の確保等を図るため、実証調査と車両購入費補助により、環境にやさしいグリーンスローモビリティの普及を推進している。実際の走行地域として現在、13 の地域で運行している。



△ 参考 URL



02 日曜日 @ 高知市

300 年以上の歴史を持つ土佐の市で、年始（1 月 1・2 日）とよさこい祭り期間（8 月 10～12 日）を除く毎週日曜日開催されている。新鮮な野菜や果物はもちろん、金物、打ち刃物、植木なども売られており、市民と県外からの観光客などもあわせると 1 日に約 17000 人が訪れる生活市である。



△ 参考 URL

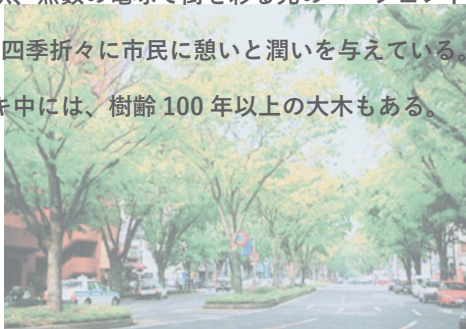


03 青葉通 @ 仙台市

定禅寺通と並び仙台市のメインストリートである青葉通は、県木や市木になっているケヤキの並木が続く目抜き通りである。「青葉まつり」が行われる春、涼しい木陰をつくる夏、赤や黄色の紅葉に染まる秋、無数の電球で街を彩る光のページェントが行われる冬など、四季折々に市民に憩いと潤いを与えている。大きく育ったケヤキ中には、樹齢 100 年以上の大木もある。



△ 参考 URL



04 ハートの形の石垣 @ 長崎 眼鏡橋

長崎市にある興福寺の黙子如定禅師が架設した眼鏡橋だが、近年では眼鏡橋をはじめとする中島川護岸にあるハートストーンが、愛を願うパワースポットとして人気を集めている。



△ 参考 URL



05 街路樹の樹種について

街路樹は、道路景観の向上や沿道環境の保全、道路交通の安全性・快適性の確保等を目的として道路空間に植栽されるものである。参考文献では、イチョウ、プラタナス、マテバイシ、ハナミズキ、ケヤキ、トウカエデ、クロガネモチ、ユリノキ、ヤマモモ、サクラ、カツラ、ヤナギ、エンジュ、ヒメコブシ、シラカシが挙げられていた。



△ 参考 URL



ケヤキ

プラタナス

00

関連する事例等あればここで共有します